

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570112201		
法人名	株式会社 秋田介護支援センター		
事業所名	秋田ひまわりの家 グループホーム		
所在地	秋田市下北手桜字新桜谷地85番地		
自己評価作成日	平成22年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/index_cat249.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成22年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの役割を認識し「利用者の尊厳を守り安全で安心快適な生活を提供する」という理念を職員1人ひとり尊重し心に留め実践に結びつけていく事を常に心掛けている。具体的にはその人がその人らしくありのままに日々の生活を生き活きと過ごせる様に家族・地域・専門的な立場で協力しあい安全且安心快適な生活を提供出来る様に支援することを常に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度から2カ月毎に運営推進会議が開催されるようになりました。職員も自分の親を利用させたいホーム、自分が欲しい介護やして欲しくない介護を意識化することで、ホームでのケア内容の向上に取り組んでいます。近隣にある他事業所との交流にも積極的に取り組み、自らのホームのケアのあり方を検証し、より良いケアの提供を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	① ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	① 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳を守り安全で安心快適な生活を提供する」という理念を職員1人ひとり、尊重しその理念をホールに掲げ心に留め、実践に結びつけていくことを常に心掛けている。	理念を利用者の日常ケアの中で実現することを目指してミーティングで討議を重ねています。又、日々のケアを振り返っています。	「地域密着型」に位置づけられた意義を確認しつつ、理念を再構築されることを期待致します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と散歩時に挨拶を交わしたり、近所の方が作ったお米を分けて貰い施設で食したりしている。年2回発行している「秋田ひまわりの家新聞」を地域に配布しより深くつながりを深めている。	同一敷地にあるデイサービス利用者を介して利用者と地域住民との交流が確保されています。又、近隣高校の学生ボランティアや地域住民との交流は意欲的に行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進委員の方々を通して地域で認知症介護をされている方や困っておられる方がいたら気軽に相談に来て欲しい旨伝えている。今後も地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていくよう努力して行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議の内容は、全職員へ周知するようにしている。そして今後も引き続き頂いた貴重なご意見、ご提案を職員間で話し合いサービス向上に活かせるように努めていきたい。	運営推進会議は2カ月毎に開催されています。構成メンバーは民生委員・地域包括支援センター・利用者家族・消防等です。ホームの利用者の状況・行事予定等が議題になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター、地域センター、地域社会福祉協議会とは必要時連絡を取り、出来る限り関わりを持つようにしている。また行政主催の研修会には出来る限り参加するようにしている。	行政とは制度等についての照会等を行なっています。又、地域包括支援センターとの連携も取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修により職員の意識を確認し、身体拘束をしないケアを行なっている。今後も研修会、マニュアルを再確認し引き続き職員に意識づけ取り組んでいく姿勢が必要。	職員は身体拘束の弊害について理解をしていますが、現在、口頭にて家族の承諾を得た上で、身体拘束を行なわざるを得ない事例があります。	職員の討議で身体拘束を行わないケアに取り組み、やむを得ず必要な場合は同意書を取り交わし、排除に向けた取り組みをされることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修等に参加し職員が意識を持つことと、起こりうる状況を未然に防げるように不適切ケアへの早期発見・早期対応をするため定期的な研修を継続する事が必要。		

秋田ひまわりの家 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の職員が外部の研修に参加し制度について学んできたことを元に月1回の勉強会のテーマにし皆で学んだり、また入所者の1人が実際後見人制度を活用しているので、制度の必要性を十分理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、十分説明し理解を得てもらっている。ご利用者様、ご家族様の不安や疑問に関しても理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱の設置、来訪時や電話等で思いを気軽に伝えて貰えるような関係作り心掛けていますが、外部者へ表出させる機会を設け、それらを運営に反映させることは行っていない。	利用者及び家族からの希望を引き出す取り組みが行なわれています。又、その希望を実現する為のシステムは確立されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングや管理者・全体会議を通して職員同士の意見交換や提案を出し合う機会を設けている。	日々のコミュニケーションから職員の意見・希望を引き出す取り組みが行なわれ、利用者のケアの改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議、全職員を含む全体会議、事業所内でのスタッフミーティングなどで職員の意見や提案を聞く機会を設け、なるべく活かしていくよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加を奨励したり、月1回勉強会を開き、外部から講師を招き都度テーマに沿った学習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県・秋田市内のグループホーム協会へ入会し同業者との交流・情報交換を行っている。		

秋田ひまわりの家 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込時から入所が決まるまで、ご本人とお会いする機会は殆どない、入所が決まった時点でもご本人が納得し入所することも少ない。入所後本人の話、要望を傾聴し不安を取り除き、安心して生活して貰えるよう良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時、ご家族から困っている事、不安な事、要望等を聴取している。入所が決まった時点で再度面談を重ねご家族の不安を少しでも軽減した状態で入所していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の掃除・洗濯・調理、買物・畑、花作りと一緒に行動するように心掛けている。同じ屋根の下で時間を共有し共に支えあう関係を築けるように努めているが職員の意識や力量に格差があり十分に出来ているとはいえない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご意向に合わせて面会・外出・電話・外泊等で関わりが継続出来る様支援している。しかしご家族が遠方だったり、親近者が居られない方などご本人が望むような関わりが十分出来ない方も居られる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されている殆どの方が90歳前後とご高齢になり以前のような外出が気軽に出来なくなってきたため馴染みの人の話を引き出したり、生家の場所などを折りに触れ聞き出したりと支援に努めている。	利用者家族の協力も得て、行きつけの店・場所等への外出支援が行なわれています。利用者の友人等の訪問もあり関係の継続は保たれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互い協力しあい、作業を行ったり、レクリエーションを楽しんだり、仲の良い利用者様同士が談笑されたりと様々な人間関係があり、関わりを援助・仲介している。		

秋田ひまわりの家 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が修了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所先の情報提供や将来に対する不安等ご家族の話を聴取したり、退所後もいつでも、どんなことでも気軽に相談して欲しいとお伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない普段の会話の中での聴取やご家族からの情報収集、またご本人の言動・行動を観察するなどご本人の望む暮らしや意向の把握に努めている。意思伝達が上手く伝える事が出来ない方についても意向を把握出来る様に努力している。	家族から生活歴等の情報を得て利用者の生活を理解するシステムは確立しています。又、日常のコミュニケーションからも引き出す努力が行なわれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご本人やご家族からこれまでの暮らしについて聴取、また事前にご家族に生活史を記入して貰っている。入所後も都度情報を得られた時は追加記入をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方・心身状態・有する力等を記録に残すことで職員全員が共有し現状の把握が出来る様に努めているが、もっときめ細かい記入法を検討していきたいと思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見を聴取しつつ、主治医、訪問看護師、職員・関係者の意見やアイデアを取り入れ介護計画を作成するよう努めている。	利用者視点にたった介護計画を作成する為にモニタリング・カンファレンス等が定期的に開催されています。	アセスメントの書式の工夫、具体的期間の明示、作成日の記入等の取り組みを期待します。また、現在見直しの方法を改善中ですので、今後はその成果を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録にケアの実践、気づき等を個別記録に記入、ご本人からの訴えや言動等を出来るだけ詳細に記録するように努め職員が情報を共有出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

秋田ひまわりの家 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の他施設との交流、デイサービスの利用者様や、そこに慰問に来られるボランティアとの交流など色々協力を得ている。消防署には避難訓練時の立ち合いや普通救命講習会を行ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望により入所する前の病院に定期的に受診される方とご本人、ご家族の希望、同意のもとかかりつけ病院の往診を定期的に受けている方がいる。また歯科医も必要に応じ往診に来て貰っている。	利用者及び家族の意向を確認した対応が行なわれています。定期的な訪問診療及び必要時には訪問歯科の対応が行なわれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師の配置は無いが、かかりつけの病院との契約により週1回の訪問看護を受け健康チェック、問診等を行っている。また階下がDSになっており、そこに在籍の看護師とも連携を取り必要な処置を行ってもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際ご本人のストレスや負担を軽減するためご家族と相談の上ご本人に関する情報の提供を行っている。また入院当初から退院に向けた調整やスムーズに退院出来る様に病院関係者・ご本人・ご家族と退院計画を話し合うなどの支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援のあり方や事業所の対応について段階ごとに、ご家族・かかりつけ病院関係者、と意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。また事業所の力量を把握し現状ではどこまでの支援が出来るかの見極めも職員全体で検討しながら支援に取り組んでいる。	家族の希望や医師・職員との方針を基礎に、職員の介護能力と利用者に求められるケアを確認した取り組みを行なう方針が確立されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、普通救命講習を受けているが今後も急変時や事故発生時に速やかに慌てず適切な行動が取れるよう繰り返し実践訓練や研修を行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。運営推進会議などで地域の人々や他の事業所の力をお願いしているが、さらにご近所の方々の協力も得られるように早急な対応を検討。	避難訓練は年二回行なわれています。同一敷地内にある生活支援施設との協力関係があります。2Fという構造的な環境から消防署との検討討議が行なわれています。来年にはスプリンクラーが設置される予定です。	

秋田ひまわりの家 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう個々人にあった対応、声掛けを行っているが、職員の意識や能力に格差があり、まだ改善の必要がある。個人情報の取り扱いに関しては入所時に説明し広報誌、HPの写真等の掲載の有無は事前に承諾を得た方だけになっている。	個々のケアにおいて利用者の尊厳とプライバシーの確保を意識したケアが行なわれています。ホームページ等外部に公表する写真等は家族の同意を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりとの関わりを大切にと個々人に合った言葉使いなどで対応したり、自己決定してもらえるような言葉かけなどの方法を取っているが、職員の力量に格差があり、十分とはいえない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で業務を推し進めないようにしている。個々人がその日の状態に合わせて自己決定できるよう能力に合った選択をしてもらえるようにしているが、職員の力量に格差があり十分に出来ているとはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	日々の衣服の選択はご本人の意向に添って行ったり、ご希望があれば白髪染めの援助も行っている。ご家族と行きつけの美容院へ出掛ける方も居られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で食べたいものなどを伺ったり、旬の食材を使い季節感を感じてもらえるような献立作りを心掛けている、また個人の能力に応じて買物・調理・後片付けの作業を職員と一緒にしている。	利用者の可能なレベルで食材の下ごしらえ、味見、調理等が行なわれており、職員も同じメニューを同テーブルで一緒に摂り、会話を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は把握している。一日を通して必要な食事や水分が摂取出来る様に支援している。個々人の状態に合わせお粥・刻み・トロミで提供したり、食器も個々人に合ったものを提供しスムーズに摂取してもらえるように様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性は全職員が理解し取り組んでいる。毎食後のうがい・歯磨きは声掛けにより個々人の状態に合わせた援助を行っている。		

秋田ひまわりの家 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の残存機能を可能な限り活用しトイレで用を足す援助を行っている。また誘導時の声掛けや、失禁時の対応時、羞恥心やプライドを尊重し援助するよう心掛けている。	スタッフは排便チェック表を活用し利用者の排泄パターンを把握しています。日中は誘導や声掛けにより利用者のプライドを尊重したケアを率先しています。又、オムツからリハパンそしてトイレでの排泄へと改善したケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じた自然排便を促すため、適度の運動、食べ物の工夫等予防的な支援と、医師の処方による下剤、整腸剤の服薬を行っているがそれでも改善しにくい方も居られるため今後も対応の検討が必要。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を作っている。バイタルや健康状態を確認しながら一人ひとりの意向を第一に寛いだ気分で入浴出来る様に、また羞恥心・恐怖心・負担感等負わせるなく、無理強いすることのないよう支援している。	入浴は最低週2回は確保されています。利用者の希望があれば毎日の入浴も可能です。個々の状況に応じた入浴への働きかけ、及び足浴・清拭等の対応も行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が夜間の睡眠につながる様意識して援助している。就寝時間は個々の意向を尊重しているが寝つきが悪かったり、途中覚醒の人とはゆったりとした気分で関わりを持つようにしているしかし必要時は医師に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、訪問看護師と連携を取り服薬管理を行っている。また飲み忘れや誤薬を防ぐため職員が管理をしている。服薬する薬の目的や副作用、用法や用量についてはファイリングしているが全職員が理解しているとは言い切れない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに合った役割や作業等楽しんで継続していけるよう援助している。歌を唄う事が好きな方が多いので皆で唄う時間を毎日取り入れてたり、外出の機会を設け気分転換を図ったりと少しでも楽しみのある生活を送ってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	個々人の意向に沿い季節を感じていただける場所に出掛けたり、ドライブしたり、また施設周辺の散策、外気浴等で気分転換を図っていただいている。ご家族のご協力のもと、御墓参り、外泊などされる方もおられる。	食材の買い物等日常的にできる外出に取り組んでいます。また遠方への花見・水族館等への外出も取り入れ、外食も楽しんでいきます。	

秋田ひまわりの家 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望でお金を所持されている方、事業所側でお預かりしている方など個人の能力に応じた対応をしている。職員と一緒に買い物し、自分で選び自分で支払う喜びをもっと感じてもらえるよう継続して支援して行きたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に携帯を置きご家族とやりとりされている方など、本人が希望すれば電話を掛けることは自由であるが残念ながら自分から積極的にかけようとしたりまた手紙のやりとりは殆ど無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気を感じていただけるようにホールに四季折々の花や物を飾ったり、温度・湿度・換気は1日数回、チェックし調整したし、空気清浄機を設置し利用者様が居心地良く過ごせる様に環境整備を意識的に行っている。	広いロビーから四季の変化を感じ取ることができ、採光も保たれています。又、利用者の楽しそうな雰囲気を感取れる行事時の写真等が、廊下一面に掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	玄関、ホールに長椅子、ソファを数箇所置き、気の合う人同士談笑されたり、畳スペース等で1人でのんびり過ごして頂いているが、建物の構造上オープンスペースになっているため、他の人を気にせず全く1人になれるスペースはない。利用者様の状況の変化に伴い、ソファ、食事テーブルの配置換えも検討して行く必要がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご家族にご自宅の部屋となるべく近い状態の中で過ごして頂く必要性を説明し馴染みの家具・調度品を持ってきていただき、少しでも居心地良く安心して過ごしてもらえるようにしている。	嫁入り当時のタンス、遺影、家族写真等で利用者毎の生活環境が創造されています。又、利用者毎に一年のエピソードを記録した写真も掲示されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当事業所は施設の2階になっているためエレベーター、階段の両方を利用者様の身体状態に合わせて利用している。館内はバリアフリーとなっており車椅子可能なトイレ、随所に手すり等設置しているが、状態の変化に合わせて今後も設備の工夫も検討して行く必要がある。		